

COVID-19 Solidarity Response Fund for WHO

WHOのための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金

ワクチン・治療薬の開発・分配に関する支援（最新の成果レポートより）

2021/5/19

[Tweet](#)

ワクチン開発のためにCEPIに1,000万米ドルを配分
—2021年前半までに世界に迅速かつ公平にワクチンを届け始めるために—



Photo credit: AstraZeneca

迅速な新型コロナウイルスワクチン開発は、これまでのワクチン学や公衆衛生の歴史において突出したものになりました。新型コロナウイルスのパンデミックが始まった早い段階から、この世界的な危機を収束に向かわせるためには、世界中のすべての人が、確実に新型コロナウイルスワクチンを接種できるようにする必要がありますが分かっていました。

また、これまでよりも感染力の高い新型コロナウイルスの変異株が出現していることを考えると、世界全体で引き続き、有効なワクチンの製造を強化・拡大し続け、全ての国が遅れを取ることなく公平なアクセスが可能な状態を実現することが極めて重要です。

新型コロナウイルス感染症の原因となるウイルス SARS-CoV-2 の遺伝子配列の解読から 1 年も経過しない内に、CEPI（感染症流行イノベーション連合）から資金援助を受けたオックスフォード大学やアストラゼネカ、モデルナ、ファイザーと BioNTech 社製などの複数のワクチンが、世界中の規制当局による緊急使用の承認を受けました。今後、その他の候補ワクチンにも承認が下りていくことが期待されています。

CEPI は現在までに、複数の候補ワクチン開発支援のため資金援助を提供しており、そのうち 10 種類のワクチンが開発中、8 種類のワクチンが臨床試験中です（2020 年末現在）。また、新規の候補ワクチンの開発とそれらの製造能力を増強するため、インドのバイオ医薬品企業 Biological E Limited と韓国のワクチン開発企業 SK バイオサイエンスとの新しい提携も進行しています。

さらに、2020 年 12 月には、CEPI も参画している、世界にワクチンを迅速かつ公平に供給するためのグローバルな仕組みの一つ COVAX が、参加 190 カ国と地域を代表して約 20 億回分の新型コロナウイルス候補ワクチンを手に入る取り決めを行ったと発表しました。COVAX は CEPI が Gavi ワクチンアライアンスおよび WHO と共に主導するイニシアチブで、ワクチンを複数国で共同購入して公平に分配する国際的な枠組みで、日本は最初に COVAX への拠出を決めたドナー国の一つとして、大きく貢献しています。

この新しい取り決めに加えて、COVAX は CEPI が支援する新型コロナウイルス候補ワクチンの治験が成功して承認が降りた際には、10 億回分以上のワクチンを手に入ることができるという優先購入権を得ました。これらによって、全ての参加国および地域が 2021 年前半にはワクチンを手に入できると見込まれています。（筆者補足：2021 年 3 月にはコロンビアを皮切りに、各国政府による承認と各国での輸送受け入れ体制の準備が整った国々への輸送が開始されています。）

また CEPI は GISAID（the Global Initiative on Sharing All Influenza Data）、英国公衆衛生庁および英国立生物製品基準規制機構と共同で新しいタスクフォースを設立し、SARS-CoV-2 の遺伝子配列のリアルタイムかつグローバルな追跡と検査をさらに強化して、変異株ウイルスが開発中のワクチン候補にどのような影響を与えるかを評価する予定です。全ての国のあらゆる人びとのニーズに応えるためのツールを確実に手に入れるため、次世代の候補ワクチンを中心に、ワクチンの研究と開発への投資を継続的に行っていく必要があります。パンデミックにより世界が壊滅的な危機に晒されながらも、ワクチン技術の著しい発展があり、この緊急対応の決定的なツールのひとつになったということは、後世の歴史に残るものになるでしょう。